

平成 28 年度第 3 回園芸研究所主要課題現地検討会（イチゴ）の開催

平成 29 年 2 月 2 日に園芸研究所において、イチゴに関する主要課題現地検討会を開催しました。内容は、園芸研究所の取り組みとして①夜冷育苗、②炭酸ガス施用、③窒素吸収特性、④不受精果対策として実施している現地との苗交換について、野菜研究室および土壌肥料研究室の担当者が紹介し、ほ場において試験状況を見学しました。

①夜冷育苗では、11 月上旬から収穫を開始し、連続収穫を行うために必要な栽培技術について説明しました。夜冷庫を導入し、11 月上旬から出荷を行っている生産者からは、変温管理について興味深いという意見が得られました。

②炭酸ガス施用では、ほ場において炭酸ガス濃度の測定位置や施用チューブの設置位置について生産者と意見交換を行いました。また、実際に炭酸ガス施用を行っている生産者との間で、施用時間帯や施用効果について、現地状況と園研ほ場とを比較しながら情報を交換しました。室内での総合討論では、試験ほ場における炭酸ガス濃度の実態を参考にしながら、光合成を意識した炭酸ガス施用の重要性について討議を行いました。

③窒素吸収特性に関しては、昨年までに明らかにした窒素吸収特性に基づいて開発した施肥法を実証中の圃場を見学しました。これまでの生育や収量について質問があり、窒素吸収特性に基づく施肥法で、慣行と同等の生育となっており、特に肥効調節型肥料を用いて施用している試験区の収量が、現時点では最も多いことをご紹介しました。

④現地との苗交換に関しては、試験の経過として、交換した苗のこれまでの生育および頂果房での不受精果発生について説明しました。試験ほ場の見学では、現地と試験圃場の生育や奇形果発生について、苗を交換した生産者と意見交換を行いました。

また、総合討論では、昨年より開始した環境測定装置の利用による環境の見える化について意見交換がなされ、設置農家からは、炭酸ガス濃度の推移が把握できたことにより施用条件や施用方法を変えることで増収や経費削減につながった事例が紹介されました。

参加者は、生産者・JA関係者が 7 名、県関係者が 35 名の合計 52 名でした。参加者アンケートからは、品種、環境制御、肥培管理に関して高い興味がうかがえ、情報提供を要望する意見が寄せられました。



室内検討における研究内容の紹介



試験ほ場において生育状況を確認